

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>1 基本的な生活習慣を身につけ、自らを大切に他人を思いやる心をもつ生徒を育てる。</p> <p>2 教職員、生徒が希望、情熱、愛情、信頼をもって一体となる、特色ある、活力にあふれる学校づくりを進め、保護者、地域から信頼を得る。</p> <p>3 個々の生徒の能力、適性、興味、関心や進路希望に応じた主体的な学習を促し、きめこまかな指導の実践により、生徒の進路希望の実現を図る。</p> <p>4 学校評価、教職員評価システムによって、自己点検、評価を行い、教育活動の改善を目指す。</p>	<p>1 基礎学力の定着をはかるために、様々な授業の工夫を行った。「にしおつスタディカップ」や「国際交流活動」は学習意欲の向上に成果があったが、自主的な学習時間の増加に繋がる取組や自習室の活用で課題が残った。</p> <p>2 規範意識の向上と道徳心の育成については、全教職員が服装指導や頭髪指導に取り組み、一定の成果が見られた。今後も、教職員が一丸となった持続的で粘り強い指導が肝要である。</p> <p>3 進路指導については、学年部と進路指導部、各教科との連携が図られ、個々の生徒に対して丁寧な指導を最後まで行った結果、一定の成果が見られた。今年度もチームプレーで指導を行うのが重要である。</p> <p>4 広報活動については、説明会の工夫や、ホームページのリニューアル、広報誌の定期的な発行と中学校訪問を通して、本校の教育活動を外部へ発信することができた。今後も、地域の中学校を中心に連携を深め、学校に対する信頼を高める取り組みが必要である。</p>	<p>1 頭髪指導、服装指導等の生徒指導を全教職員で一致して行い、生徒にけじめのある学校生活を過ごさせることで、規範意識の向上と公徳心の育成をはかる。</p> <p>2 各教科で生徒の学習意欲を高めるわかりやすい授業実践を行い、自主的な学習時間を増加させ、学力向上を図り、希望進路を実現させる。</p> <p>3 当該分掌、教科、学年だけでなく、全教科・全分掌が協力し合って国際教育を充実させるとともに、各コースの教育内容の充実を図る。</p> <p>4 学校説明会を充実させるとともに、学校HPや「西乙だより」を通じて、中学生や保護者にタイムリーな情報提供を行い、志願者の増加をはかる。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	所見
組織・運営	◇分掌間・教科間の協力推進	○分掌間と教科間での領域を超える連携と調整を図り、教職員全体が当事者意識を持ち、各コースの教育内容を充実させる取組を推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年の取組については事前に関係分掌と打ち合わせの上、実施できており、学校説明会では教職員全体の連携、協力が図られた。また、進路行事において各学年と連携を図って取り組んでいる。分掌間の連携についても協力が進んでいる。しかし、各分掌間の情報提供が不十分で、調整が取りにくいこともあり、関係分掌だけでなく、教職員全員が共通の意識を持って取り組み等について確認できるようにする方がよいとの課題がある。 各コースの特徴的な取組としては、2年γコースで、茶道・華道教室を実施している。ただ、各コースの取組が、一部の教員の負担になっており、全教職員に周知されていない面もある。
学習指導	◇学力の向上	○個に応じたわかりやすく、魅力ある授業を展開し、生徒の学力向上につながるよう課題設定を行い、指導技術・技能を向上させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 課題としては、家庭学習の時間が多くない生徒がいる現状がある。ただ、1年生については、学習時間の増加までには至っていないが、週末課題等の提出は良好である。しかし、自宅学習がまだまだ定着しておらず、不十分である。 学習時間調査を実施し、その結果を、生徒・保護者へのフィードバックを行って、家庭学習時間が増えるように促している。 いろいろな課題や小テストを提供しているが、まだ十分取り組めていない生徒も多く、生徒の学習意欲を高める働きかけや適切な課題の設定が必要である。 視聴覚機器については、使いやすくなった。また、校内掲示として大きなスクリーンで新着本の紹介なども流れていて図書館利用の宣伝効果もアップしている。 国際交流については、積極的な国際交流がされている。姉妹校との連携の拡充等で、生徒の国際理解への興味・関心が高まっている。それぞれの取組が学力向上にどの程度結びついているのかの分析が今後必要である。それが、進路実現にどのようにつながられるかを考えていきたい。 海外へ行く機会が増えてはいるが、一方で多忙になってきているのも事実である。
	◇家庭学習の充実	○自主的な学習時間を増加させることを目指し、学習時間調査を有効活用し、毎日の家庭学習時間が<学年+1>となるよう指導する。	C	
	◇図書視聴覚教育の充実と委員会活動の推進	○視聴覚機器を利用しやすい環境整備を図るとともに、新着本等の紹介を通じて、生徒の読書意欲を向上させ、図書館利用の促進を図る。	B	
	◇国際交流の充実と異文化理解の推進	○米国アーリントン高校との交流を中心に積極的に国際交流活動を実践し、国際教育を充実させる。第2学年では、海外研修旅行を通じて生徒の主体性を引き出す指導を行い、成功させる。異文化理解を推進するだけでなく、進路実現につながる学力向上に結びつける。	A	
進路指導	◇希望進路の実現	○様々な取組を通じて学力伸長をはかり、実践的な実力養成を支援し、生徒個々の進路希望に応じた指導や個人面談を行い、最後まで粘り強く取り組む意識を醸成し、希望進路を実現させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 1・2年での進路LHRの充実に取り組んでいる。1年生は、2学期に進路指導部と連携しキャリアプランガイダンスを実施する。キャリアプランガイダンス等で、進路目標を持たせているが、授業を通して指導していくべき内容も整理する必要がある。 コース選択に先だって学部学科調べを行い、コース選択に際しては、必要に応じて個人面談を行っている。 講習・外部模試等の参加の継続について、粘り強く取り組む指導や、学年・教科との連携がさらに必要である。個々の進路希望に応じて、何度も個人面談を行い、指導している。
	◇キャリア教育の推進	○学年部との連携や高大連携等の取組を通じて、具体的な進路目標や進学意識を早期に形成する。生徒個々のキャリア形成を促進し、進路希望に応じた指導を徹底し、進路決定率100%を実現する。	B	

生徒指導	◇規範意識と自主自律心の向上	○挨拶励行、身だしなみ、適切な言葉遣い、清掃の徹底、時間厳守（ベル着、遅刻防止）等、基本的な生活習慣が確立するよう、全教職員が一致した指導を行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣の確立が定着しつつあるが、全教職員の共通理解のもと指導を継続する必要がある、生徒の自主性の育成が今後の課題である。 生徒の身だしなみについては、学年と生徒指導部が連携し、指導が必要な生徒がいれば、個別に早急に指導を行うことにより改善されてきている。 通学安全指導は定期的に行っているが、登下校時の特に自転車の走行等の交通安全の意識を更に強化する対策が必要である。生徒の規範意識は低いままと考えられる。 部活動の加入率80%近くまで来たが、さらに部活動の活性化を図る必要がある。 特に3年生は、学校行事に意欲的に取り組んでおり、生徒会本部役員は積極的に活動ができている。 ゴミの分別に関しては、まだまだ意識が低い生徒がいる。 廊下の壁を塗り替えて、全体的に明るくなったが、さらに環境美化についての意識を高める呼びかけをしていきたい。 教育相談および特別支援の必要な生徒には、丁寧に指導できている。特に、学校に登校しにくい生徒に対しては、各担任が必要に応じて面談や家庭訪問を行い、保健部とも連携して細やかな指導を行っている。 人権感覚を意識させる活動として、生徒指導部人権担当と連携し、人権学習を行っているが、日常の言葉遣いなど、さらに人権感覚を意識させる必要がある。指導項目や基準において教職員間で十分に討議することも一致体制を取るために必要である。全教職員の一致した指導を行う。
		○生徒会の各委員会活動を活性化し、生徒の自主性を育成する。	B		
	◇交通安全指導の推進	○地域、PTAとも連携し、通学安全指導を強化する。	B		
	◇特別活動や部活動の育成と充実	○生徒会活動及び学校行事に積極的に参加するだけでなく、部活動にも加入して積極的に取り組むよう指導する。部活動の加入率を引き上げる。	B		
	◇環境・美化の推進	○学習環境を整備するために保健委員を中心に、ゴミの分別やペットボトルキャップのリサイクル推進等の環境美化活動、及び広報活動を行い、生徒全体の意識を向上させる。	B		
	◇生徒の実態把握と支援の充実	○健康調査等により生徒の健康実態を把握し、校医・家庭・教職員との連携を密にして、健康上課題がある生徒の早期対応に努める。	B		
		○スクールカウンセラー及び地域の専門機関との連携により、学校における教育相談及び特別支援の機能を充実させる。	B		
◇人権意識の向上	○生徒の人権意識を高揚させるために、あらゆる教育活動において人権感覚を意識させる指導を行う。	B			
家庭・地域	◇広報活動の充実	○本校の良さやコースの特徴を中学生や保護者にわかりやすく発信するために、地元中学生への広報誌配布や、HPの更新とメールサービスの計画的な活用に努める。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会の申込み方法やパンフレットなど年々改良を目指している。毎月のにしおつだより発行、スクールガイドをダイジェスト版・詳細版の発行、ホームページ更新も内容・回数とも充実を図っている。 学校説明会は、学校外での実施、部活動体験日を増やすなどの取組を行った。学校を知ってもらえたと思われるが、回数や時期、内容については更に工夫を考えていきたい。 中学校への広報誌の配布や中学校訪問により、中学校との連携も図るようにしている。
	◇地域・外部への的確な対応	○窓口・電話業務を好感を持たれる様な対応を心がけた的確に行い、地域・外部へのサービス向上に努める。	B		
安全管理	◇安心・安全な教育環境の整備	○校内危険箇所の点検を定期的に行い、早期対応に努める。また、不審者の侵入を防ぐため、外来者の確認を確実に行う。併せて、備品等の管理を徹底する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内の危険箇所や設備の不備の有無について、点検等の努力が更に必要であり、発見された箇所については、事務部との連携で速やかに改善を行っている。 校舎内が美しく明るくなり、過ごしやすくなってきた。 	
生徒福祉	◇的確な生徒福祉業務の推進	○生徒の教育の保障と進路実現に向けて、就学支援金や奨学金等の業務を的確に行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> 就学支援金や奨学金等の案内、手続き等についても事務部と連携して行っている。 	